

平成14年度全知P連子育て支援事業

「休日・放課後における障害児の地域活動促進事業」

～児童生徒の地域活動を充実させるためのセミナー～（報告書）

島根県立松江養護学校

1. 期日 平成14年12月7日（土）

2. 会場 島根県立松江養護学校

3. 参加者

知的障害養護学校	関係諸機関	本校保護者	本校教職員	計
38	22	34	90	184

4. 内容

(1) 講演

「障害児の地域生活を充実させていくための支援について」

講師 鳥取大学教育地域科学部教授 渡部昭男 氏

- 鳥取大学教育地域科学部附属養護学校の実践  
「生活を楽しむ授業づくり」→地域活動への参加、内容の充実
- 特殊教育から特別支援教育への移行  
地域からの支援と養護学校からの支援
- 鳥取県の地域支援事業について  
障害児者地域療育等支援事業  
居住地交流の推進

(2) 提案発表

「子どもと親が豊かに生きるために～学童保育と地域支援の取り組み～」

発表者 島根県立松江養護学校 PTA 副会長 妹尾千晶

- 学童保育（ハッピーアフタースクール）の取り組み  
現状と今後の課題
- 地域活動支援事業（スマイルホリデープロジェクト）の取り組み  
目的と活動の流れ  
ボランティア養成講座からのボランティア派遣  
活動の紹介と今後の課題

(3) 質疑応答

- 学童保育への質問
  - ・補助金に関する内容
  - ・ボランティアの確保に関する内容
  - ・事業開始までの経緯に関する内容
- 地域活動支援事業への質問
  - ・ボランティア養成講座に関する内容
  - ・実施上の困難な点に関する内容

(4) 分科会

第1分科会：「放課後の取り組みについて」 Aグループ・Bグループ

第2分科会：「休日の取り組みについて」 Cグループ・Dグループ・Eグループ

① 情報交換

- [第1分科会 放課後の取り組みについて]
- 各学校や育成会等での取り組みの様子や悩みについて
    - ・活動内容
    - ・運営形態、ボランティアの確保
    - ・学校や地域との関わり
- [第2分科会 休日の取り組みについて]
- 各学校や育成会等での取り組みの様子や悩みについて
    - ・サマースクールやレスパイト事業
    - ・養護学校のセンター的な役割
    - ・卒業後の問題

② 指導助言

指 導 助 言 者	分 科 会
島根県立江津清和養護学校長	第1分科会
島根県立松江清心養護学校長	第2分科会
島根県立隠岐養護学校長	第3分科会
島根県教育庁高校教育課特別支援教育室長	第4分科会
島根県教育庁生涯学習課地域学習振興班長	第5分科会

- [第1分科会 放課後の取り組みについて]
- ・子供を豊かに育てていくのが重要
  - ・居住地交流の重要性
  - ・保護者の主体性とニーズが重要
  - ・学校外での活動が理想
  - ・活動内容に工夫を
  - ・行政への働きかけ
- [第2分科会 休日の取り組みについて]
- ・公民館等の地域の施設が鍵を握る
  - ・こちらからアイデアを出していく
  - ・特殊学級との連携が重要
  - ・事業継続には、後継者が必要
  - ・島根県での助成制度、助成事業の紹介

③ バーチャル案作成

放課後活動実施に向けてのプログラム案	地域活動実施に向けてのプログラム案
16部作成	14部作成

今日のセミナーは面白いところ大変ご苦労様でした。せっかくですから貴校で「放課後活動」バーチャル案を企画してみてください。

放課後活動実施に向けてのプログラム案

活動内容	ダンス・音楽(楽器)を奏(も)り
活動場所	音楽室と踊り場 楽室も
実施時期と回数	週一回くらい
対象の児童生徒	全生徒
活動に必要な人数(指導者・ボランティア)と募集の方法	音楽に詳しい方を入れる
期待される効果	本人が楽しい ストレス発散 将来的に発表の場も出るようにしたい
活動の名前と主催団体	Ken Chanダンス 個人
経費	本人の持ち代 子供の持ち代

今日のセミナーは遠いところ大変ご苦労様でした。せっかくですから貴校で「放課後活動」バーチャル案を企画してみてください。

**鳥根県立松江養護学校** 活動実施に向けてのプログラム案

活動内容	スキスキクラブ 参加者のしん行動を他人のクラブ カレースキルのスキル構築実施可能 山(日本) 30分 夜色クラブ
活動場所	公民館 (地域) 福祉センター 差別的な校 使用は国文化しんらう、
実施時期と回数	利用者の都合にあわせて決定する
対象の児童生徒	活動に参加しん人 一般公開しんある 年齢制限なし
活動に必要な人数(指導者・ボランティア)と実施の方法	指導者 1名以上 (参加者) ボランティアは 活動者も含めて考える
期待される効果	道徳的行動のしん活動でははく 社会生活の為に 必要と 感じしんながら、継続して行くことしんらう
活動の名前と主催団体	「スキスキ仲間」 主体は地域人の組織しんらう
経費	必要経費 全額

5. 参加者からのアンケートより (抜粋)

(1) 講演に対する感想・意見

- ・ とてもよい発表で文部科学省、鳥取の動きが良くわかりました。実際に色々な活動されて、すごいなと感心しました。福祉の活動の改革期に接し不安な気持ちでいますが、やはり親が勉強して働きかけないといけないと思いました。
- ・ 後4年で特殊教育から特別支援教育へと教育が転換していくということを知り、親も学習していく必要性を感じた。全ての子どもに必要な支援が受けられる世の中になると良いと思う。
- ・ 素晴らしい取り組みがなされていると感心しました福祉や教育に対する鳥取県の熱心な取り組みをうらやましく思いました。大切なのは県の施策の透明度であると思いました。そしてもっと多くの情報をお互いにやり取りする姿勢が県相互、県教委と校長、校長(学校)と地域で大切であると思いました。何が今ニーズとされているのかそれを知るカギはやはり情報のキャッチボールであると思いました。
- ・ 障害者の理解を深めるために学校間交流が大切だと思います。町立県立学校などの絡みもありますが、障害者が触れ合う場所が多くあり子どもたちが現状を理解しながら育っていく事が必要だと思いました。
- ・ パネルディスカッション(渡部先生、生涯学習課、養護学校長、支援室長)が後であればなお良い参考になりました。
- ・ 特定場面においてのノーマライゼーションということであったように感じ

た。もう少し地域を巻き込んでの活動内容等につながる話を聞きたかった。

#### (2) 提案発表に対する感想・意見

- ・ 障害を持つ子どもさんを持つ親として切実な願いが伝わってきました。待つだけではなくこちらサイドも積極的に働きかけなければいけないと思います。
- ・ 資料を今後活用させていただきたい。
- ・ もっとがんばらなければいけないなあと思いました。島根はすごいですね。
- ・ 私たちの学校でも、ぜひおこなって行きたいと思います。
- ・ 放課後、休日、色々アイデアを考えていきたいと思います。学校に作るには時間がかかりそうですので、まず少人数のグループからはじめよう！
- ・ まだ始まったばかりだけど、非常にエネルギッシュな地道な活動を展開しておられ感動しました。スマホリはこれからの地域での活動展開に示しを与えてもらいました。この中に、支援へのヘルパーの制度なども組み込み、ボランティアは地区の人たちとの橋渡し役になるという方法もあるかなと思いました。
- ・ ボランティアの育成、指導者の育成が必要。

#### (3) 分科会に対する感想・意見

- ・ 指導員の質、学童（市）の現状を聞き、驚くばかりでした。時間がたりず残念でした。
- ・ 相互理解、コミュニケーションの大切さ改めて感じました。対立ではなく、明るく、さわやかにき然と……がモットーだと思いました。そしてわかってもらう……必ず伝わると思います。
- ・ 色々な地区の取り組みが聞けて参考になりました。地区によってばらつきがありこういう情報交換の場が必要だと思いました。
- ・ 分科会でバーチャル案を考えました。実行できたらというかできそうな案なので実現でしたら良いです。
- ・ ボランティアをいかに育てていくかという事がやはり課題になるんだと思いました。
- ・ もっとたくさん学校のほうの取り組みを聞きたかったです。それについての質問などももっとしたかったです。

#### (4) セミナー全般に対する感想・意見

- ・ 学校で支える部分では限度があります。地域で生活している部分が高いといってもいいほどです。しかし、学校で少しでも今のような松養クラブやスマホリという活動が充実しなければ地域ばかりで支えるようになり負担がでます。地域、学校、行政が連携を取り地域をたがやして行ってほしい。
- ・ 資料があったのでページの紹介などわかりやすくしてほしかった。

## 6. 地域活動の展望

今回このセミナーを開催したことにより、次のような成果が得られた。

- ・渡部先生の講演から、地域活動への新しいアイデアや今後の特別支援教育のあり方を示していただき、PTA活動のより一層の充実を図っていく必要性を感じた。
- ・提案発表をすることで、本校の課題を明確にし、整理することができた。
- ・他校の実践や指導助言者、関係機関からのアドバイスにより、本校の学童保育や地域活動支援事業についての方向性が見えてきた。
- ・準備から当日の運営を担当することにより、保護者同士あるいは保護者と教員の繋がりをより深めていくよいきっかけになった。
- ・資料を多数準備することにより、本校の活動をきちんと整理できたり、いろいろな角度からの情報を入手することができた。
- ・社会福祉協議会や公民館などの関係機関の参加により、障害児者の地域活動に対して前向きに考えてもらうよい機会であった。
- ・参加者の感想やアンケート調査から、有意義な会であったことを感じることができ、パイロット校としての責任を果たすことができたことと安心した。

これらのことは、本校のこれからの学童保育や地域活動支援事業を進めていく上で大きな活力となった。しかし現在のように地域活動をPTAの活動として進めていくためには、まずPTA全体が同じ意識を持ちながら継続させていかなければならない。また地域活動を進めていくには、やはり本校のそれぞれの地域がまとまり、そこで声を上げていく必要がある。関係機関や行政に働きかける前に、もう一度原点に戻り校内での意識統一やPTA組織の再編成を図っていくことを最優先させていきたいと考える。

一方ボランティアの確保が問題となってきたため、今までのボランティア養成講座の修了者を中心に人材バンクの結成を進め、ボランティアの派遣方法を関係機関の協力を仰ぎながら確立していかなければならない。またボランティア養成講座の内容や募集の方法など、再度見直していく必要がある。

いずれにせよ今後地域活動を進めていくには地道な活動が必要となり、常にはっきりとした目的意識を持ち続けなければ継続していくことは難しい。障害を持つ子供たちが健常児と同じように有意義な放課後・休日を過ごしていくためには、時代の変化とニーズを的確に捉えながら、新しい発想を持って活動を進めていかなければならない。本校PTAでは、待ちの姿勢ではなく、攻めの姿勢で今後の地域活動を進めていきたい。